

平成13年度
近世史料館春季展

金沢の火事と加賀鳶展

期間：平成13年4月3日（火）～5月27日（日）
場所：金沢市立玉川図書館 近世史料館 展示室



加賀鳶羽織・半纏

金沢市立玉川図書館近世史料館

江戸時代の消防組織の中心は、武家の定火消・大名火消・方角火消で、加賀藩は江戸において大名火消として、湯島の聖堂などをその担当としていた。

また、加賀藩では江戸邸の防備を任務とした火消人足を雇っており、これを通称「加賀鳶」と呼んでいた。

金沢においては、武士の消防組織として定火消の役がおかれていた。これは江戸における大名火消と同じく、藩施設や寺社をその防備対象とするものであった。

町方に対する防備組織として、江戸においては、享保4年（1719）に「いろは四十八組」や「本所深川十六組」という町火消が設置されるが、金沢においては藩初から町ごとに防火設備の設置や、消火道具の設置、火の用心を命じており、各町に防備組織が作られていた。



「加賀鳶階子乗」国芳・画

展示資料目録・解説

金沢の火事

- 1 金沢焼失図 宝永7年3月14日(1710) 16.67-7
午前2時頃、来教寺からあがった火の手は山背の風にあおられ、北国街道沿いの森下町、馬場町まで延焼し、午前9時頃まで燃え続けた。
図中「朱」で囲った範囲が羅災地域である。
- 2 蓮昌寺門前失火略図 享保21年4月2日(1736) 16.67-9
午前10時頃、蓮昌寺門前の町屋から出火し、同日午後4時頃に鎮火したが、南は浅野川大橋際、北は山ノ上町、西は大衆免町にまで延焼している。
図中「朱」で示した所が羅災部分である。
- 3 金沢城類焼後御普請等被仰付候絵図 宝暦9年4月10日(1759) 16.18-19
午後4時頃、泉野寺町舜昌寺から出火し、翌11日午前10時頃まで燃え続け、金沢城殿閣も含め、1万軒以上が焼失した金沢最大の火災である。
図は城内の焼失殿閣を「朱」で示し、応急の柵などを設置した様子が記されている。
- 4 宝暦加州火事之記 宝暦9年(1759) 16.67-10
宝暦9年4月10日の金沢大火の経緯を書き上げたもので、出火場所、類焼箇所などが記されている。
- 5 宝暦9年加陽金府大火聞書 090-224
前記同様、火事の経緯、被害内容を書きまとめたもので、展示個所は類焼68町書上の部分である。
- 6 天保6年横安江町出火地図 天保6年3月11日(1835) 090-739
午前4時頃、横安江町から出火し、東西の本願寺末寺を含め、浅野川対岸にまで類焼した火災の羅災図である。
- 7 十間町・近江町火災見分達書 安政6年1月12日(1859) 16.67-13-23
火災は安政6年1月9日朝、十間町から出火し、近江町、博労町に延焼。100軒以上を焼失した。
史料は、火災の3日後灰等の始末が済んだので、火事場の見分を命じたものである。

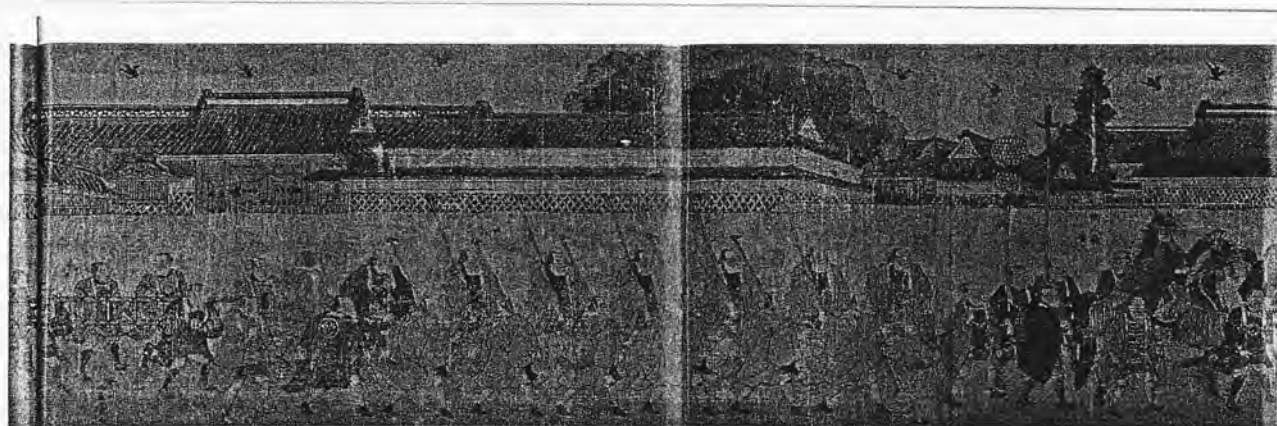
- 8 才川寺町火事届書 16.67-14
才川寺町妙賢寺門前の町屋からの出火について、消化の様子、被害等を届けたもの。

火消し・加賀鳶

- 1 纏持召仕方等相改候帳 文化元年3月(1804) 16.47-53
藩士が抱える纏持の役儀や心得について公事場から申し渡したもの。給銀等についても記されている。
- 2 火消御道具所仕法帳 文化8年(1811) 16.47-58
江戸における、火消方に関する必要経費を書き上げたもの。
- 3 御留守中火事御定 弘化4年3月(1847) 16.47-72
金沢における藩施設の防・消火担当を割り振ったもの。
- 4 火消方御合紋 16.26-98-31
「諸役交名調理帳」の中の一冊。内容は、江戸における加賀藩受け持ちの御近所火消、聖堂火消、剣格子手合の道具、羽織等の合紋を記したもの。
- 5 鳶小頭詮議振覚書 安政2年(1855) 16.47-79
鳶小頭の任免に関する覚書で、小頭役選考の資料ともなる平鳶名簿も記されている。
- 6 御抱鳶御仕法書 明治2年6月(1869) 16.47-81
御抱鳶の人数、給与などを定めたもの。明治2年時の構成は、小頭役2、目代役2、纏持2、随子持2、平鳶30、計38人となっていた。

7 加賀鳶繰り出しの図

金沢消防本部所蔵



8 加州侯御火消大聖殿前警衛之図

『江戸乃華』収録のうち加賀藩に関するもので、同書は昭和51年、日本消防写真史編纂委員会が刊行したもので、原本は国立国会図書館が所蔵している。

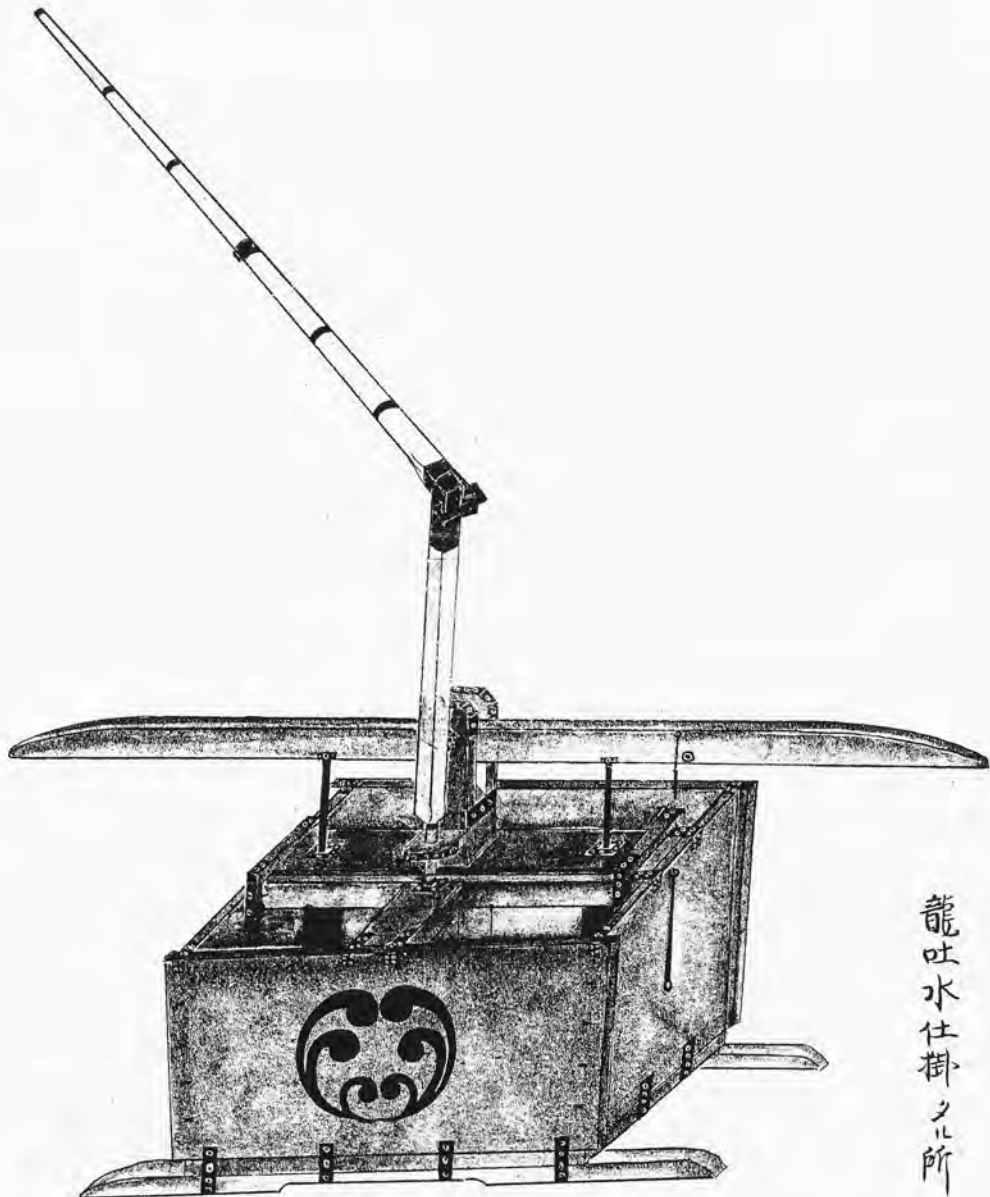
作者は歌川広重である。広重は、幕府定火消同心の家に生まれている。

9 明和9年目黒行人坂火事絵

目黒行人坂火事は、明和9年（1772）2月29日に目黒の大円寺から出火し、2日間にわたる延焼で、江戸の町を大半を焼いたものである。その被害は、600余町を焼失し7300余人が死亡している。

展示の部分は、右から、町火消が屋根瓦をはがしている様子。中程に武家火消の姿が見え、その上方では井戸から水を汲み上げている。左に移ると竜吐水で延焼を防ぐため、未焼の家に水を懸けている。さらに左には、屋根に梯子をかけ火事に挑む火消の姿が描かれている。

江戸の三大火とは、この行人坂の火事と、明暦3年（1657）の振袖火事、文化3年（1806）の車町火事をいう。



金沢大火年表

| 年 月 日 | 西暦 | 場 所 | 焼失軒数 |
|-------------|------|--|--------|
| 慶長10年10月30日 | 1605 | 金沢城天守閣落雷、大台所本丸全焼 火薬庫爆発 | |
| 元和 6年11月24日 | 1620 | 金沢城長局から出火、本丸表奥方屋形 | |
| 寛永 8年 4月14日 | 1631 | 法船寺前民家から出火、河原町から金屋町まで | 1000軒 |
| 寛永12年 5月 9日 | 1635 | 河原町後から出火、浅野川持下屋敷など | 10000軒 |
| 延宝 4年 2月19日 | 1676 | 木新保から出火、古道町に飛火 安江町など | 1300軒 |
| 元禄 3年 3月16日 | 1690 | 犀川堅町から出火 | 900軒 |
| 元禄 3年 3月17日 | 1690 | 左近橋から出火、北の町端大樋まで | 6639軒 |
| 宝永 6年 3月10日 | 1709 | 御坊町から出火、東末寺など | 213軒 |
| 宝永 7年 3月13日 | 1710 | 卯辰山来教寺から出火、観音町・博労町など | 770軒 |
| 享保 2年 2月13日 | 1717 | 下近江町から出火、袋町・尾張町など | 170軒 |
| 享保 3年 4月 6日 | 1718 | 小立野亀坂際から出火、惣門鐘楼下馬・足軽町など | 173軒 |
| 享保18年 4月26日 | 1733 | 伝馬町から出火、川原町・足軽町など | 795軒 |
| 享保18年 4月29日 | 1733 | 犀川宇方(雨宝)院から出火、野町・千日町など | 537軒 |
| 享保19年 3月 5日 | 1734 | 覚源寺前から出火、御台所町まで | 300軒 |
| 享保21年 4月 7日 | 1736 | 卯辰蓮昌寺から出火、観音町・大衆免など | 2111軒 |
| 元文 2年 7月 1日 | 1737 | 寺町から出火、浄安寺など | 115軒 |
| 宝暦 8年 5月 4日 | 1758 | 大衆免御馬屋町から出火 | 249軒 |
| 宝暦 9年 4月10日 | 1759 | 泉野寺町舜昌寺から出火、博労町まで | 10818軒 |
| 宝暦10年 3月20日 | 1760 | 大衆免から出火 | 116軒 |
| 宝暦12年 6月 5日 | 1762 | 卯辰八幡道から出火 | 600軒 |
| 宝暦12年 8月 2日 | 1762 | 寺町本長寺から出火、野町・助九郎町など | 369軒 |
| 宝暦13年 3月16日 | 1763 | 四丁木町一番丁から出火、森下町・馬場町など | 180軒 |
| 明和 1年 6月26日 | 1764 | 茶屋町から出火、愛宕下・森下町など | 600軒 |
| 明和 5年 4月 4日 | 1768 | 吹屋町から出火 | 138軒 |
| 安永 8年 6月25日 | 1779 | 高道町から出火 | 200軒 |
| 天明 1年 6月24日 | 1781 | 小立野から出火、天徳院山門前まで | 136軒 |
| 天明 2年 4月 7日 | 1782 | 堅町から出火 | 120軒 |
| 天明 3年 3月 2日 | 1783 | 上堀川町から出火、川向浅野町に飛火 | 157軒 |
| 寛政 4年 3月 1日 | 1792 | 犀川々上覚源寺前から出火、 | 130軒 |
| 享和 1年 3月 5日 | 1801 | 火除町から出火 | 200軒 |
| 文化 5年 1月15日 | 1808 | 金沢城二の丸から出火、御殿・御広式等全焼 | |
| 文化 6年 3月 2日 | 1809 | 大衆免から出火 | 211軒 |
| 文化 6年 7月 9日 | 1809 | 卯辰妙応寺から出火、金屋町・亀淵町など | 596軒 |
| 文化12年 3月28日 | 1815 | 大衆免から出火、山上村・談議所村など | 2000軒 |
| 文化12年 7月 8日 | 1815 | 石坂足軽町から出火、千日町・野田台まで | 674軒 |
| 文政 6年 4月17日 | 1823 | 田町新町から出火 | 139軒 |
| 天保 2年 7月 4日 | 1831 | 高儀町から出火 | 130軒 |
| 天保 6年 3月11日 | 1835 | 彦三東末寺門前から出火、横安江町・乙丸村など | 2946軒 |
| 弘化 2年10月24日 | 1845 | 横堤町から出火、十間町・堤町など | 273軒 |
| 弘化 3年 4月17日 | 1846 | 浅野水車町から出火、立川町・大樋町など | 1197軒 |
| 弘化 3年 5月19日 | 1846 | 安江町から出火 | 101軒 |
| 弘化 4年 4月17日 | 1847 | 田町から出火 | 218軒 |
| 嘉永 5年 4月 2日 | 1852 | 新町から出火、鍵町・惣構など | 200軒 |
| 安政 6年 1月 9日 | 1859 | 十間町から出火、上近江町・博労町など | 142軒 |
| 慶応 3年 7月 6日 | 1867 | 下伝馬町から出火、下川除町まで | 123軒 |
| 明治 4年 3月23日 | 1871 | 沼田町安立寺から出火、六斗林・三泉寺門前など | 271軒 |
| 明治13年 4月14日 | 1880 | 石坂町から出火、南多坂町・本馬町など | 300軒 |
| 明治14年 1月10日 | 1881 | 第7聯隊本部(旧金沢城)から出火、 聯隊本部・第3大隊兵舎(旧二の丸殿閣) | |
| 明治32年 4月11日 | 1899 | 安江町住吉市場から出火、石屋小路・袋町など | 118軒 |

※「石川県災異誌」をもとに作成した

※対象は金沢の旧市街に限定し、罹災軒数が100軒以上のものと特徴的なものを抽出した

江戸郷
本加賀島